

夕陽會報



函館漁港から望む臥牛山

第227号



◇巻頭言◇

大切にしてきたことを変えないために

夕陽會会長 藤川 隆

(昭和48年卒)

学芸大学入学、春の函館山頂上での研究室の歓迎会。師を中心に車座になっていたその背後を、大きな太陽がゆっくり移動していった。

太陽の全円から無数の針のように尖った光が、チカチカときらめいていた。輪郭もとらえきれないほどのまぶしい光の束、これが素晴らしい「私の夕陽」である。「きらめき」の表現を主題としよう。太陽の荘厳さも必要。夕陽会としての勢いと品格も表現したい。

金子鷗亭先生から頂戴していた超品極薄の紙に、用墨を濃くし、超長の柔い筆を用い、飛白(筆が書き残した白い部分)を出しやすくし、線質は直にし、夕陽のきらめきのイメージに近づけた。書体は古意を基本に明快さ、表現は余裕と風趣、暢達感を意識した。

「夕」の字は、他の二字よりやや抑えた表現で小さめに、「陽」の字は表現の中心として視線の集中に應える要素を多く配し、「會」の字は発展的な勢いを内在させ、なお統一感を損なわないようにと意識した。(夕陽會報第一六四号)

夕陽會創立八十周年を記念して作成した会旗に揮毫された千葉軒岳先生(昭和34年卒)が、その文字に込めた熱い思いが伝わってきます。誠に残念ですが、先生は本年の二月にご逝去なさいました。ご承知のよう

に、千葉先生は書道界に多大なご功績を残されました。また、夕陽會の文化事業の充実や後輩への温かなご指導など、本会の発展にご尽力いただきました。改めて敬意と感謝の意を表し、先生のご冥福をお祈り申し上げます。

さて、千葉先生が会旗の文字に込めてくださった「きらめき」「品格」「発展的な勢い」は、夕陽会にとっ

ていつまでも大切にしなければならぬものだと思えます。

大正、昭和、平成と、一世紀にわたり築いてきた夕陽會の歴史と伝統の中で培われ、引き継がれてきた同窓の強い絆や、創造性豊かで自由闊達な「夕陽魂」も、変えてはいけません。しかし、このように長い歴史の中で大切にしてきたことを変えないために、母校や会員の現状に応じて会の組織や運営方法などを見直し、変えていかなければなりません。

「会社員・公務員部会」の立ち上げや、「令和の夕陽會を考える会」の発足など、数十年後の本会の在り方を見通した取組を進め、夕陽會の新しい歴史の一步を踏み出します。会員各位には、引き続きご理解、ご協力をお願いいたします。

顧問・参与会

令和元年六月十一日（火）ホテル函館ロイヤルに於いて、本部役員会に引き続き、顧問・参与会が開催された。藤川会長の挨拶の後、議長に島津副会長が選出され議事が進行した。

報告・協議事項では、総会議案について審議され、白川幹事長ならびに新谷財政部長、武田監査から平成三十年度の会務・決算・監査の各報告と百周年記念行事の決算報告が行われた。続いて、令和元年度の運営方針・重点推進事項および予算案が提案され全て承認された。

百周年の節目を終え、夕陽会は新しい歴史の一步を踏み出すことから「会社員・公務員部会」の立ち上げや「令和の夕陽会を考える会」の発

足など、新しい取組についても提案され承認された。

総会・大懇親会

「令和の夕陽会を考える会」の発足

令和元年度 夕陽会総会

令和元年度の夕陽会総会は、六月二十九日（土）ホテル函館ロイヤルで開催された。

審議に先立ち、夕陽賛歌を合唱した後、藤川会長が挨拶。昨年度の創立百周年記念諸事業に対する会員の協力への謝辞を述べるとともに、令和の時代を迎え、夕陽会も新しい歴史の一步を踏み出すため、今後数十年先を見通した取組を進めていくことの必要性を呼び掛けた。

次に、議長として佐藤佳弘支部長（宗谷）、敷下一己支部長（網走）加賀重仁支部長（函館市）を選出し、本部役員選考委員・議事録署名人を確認後、議事に入った。

報告事項では、白川幹事長より平成三十年度の会務・事業報告がなされた。併せて、創立百周年の各種記念行事・事業が予定通り実施され、実行委員会が解散したことについて報告され

た。続いて新谷財政部長から、通常会費会計と基本金会計並びに百周年記念行事・事業の会計報告が行われた。門脇監査からは、これらすべての会計が適正に処理されている旨の監査報告があった。

母校関係では、藤川会長より卒業生の教員採用率や就職状況等について函館校の実績が報告された。

協議事項では、はじめに白川幹事長より令和元年度の運営方針並びに推進事項・事業計画が提案された。

次に、新谷財政部長より令和元年度の会計予算案が提案された。

なお、報告事項と協議事項はいずれも満場の拍手をもって承認された。また、本年度の重点事項（＊）と主な役員は次のとおりである。

推進事項

① 組織強化と運営の効率化

＊多くの同窓生が集うための広報活動や組織拡充の取組

＊会社員・公務員会員の入会促進に向けた組織改編の推進

② 人材の育成

＊民間企業・地方公共団体に勤める若手会員の中核となる人材の育成

③ 財政の効率的な運用と業務の見直し・効率化

＊財政基盤の中・長期的な整備策の検討

- ④ 研究・研修、文化事業の奨励
＊各支部の研究活動等の支援
- ⑤ 母校への支援と地域への貢献
＊学生に対する同窓会意識の啓発と勧誘活動の工夫

⑥ 夕陽記念館（北方教育資料館）の整備・活用

＊夕陽記念館内外の環境整備、陳列品の整理

令和元年度 主な役員（◎は新任）

- 会長 藤川 隆（昭和48年卒）
○副会長 繪面 和子（昭和39年卒）
○副会長 絹野 重治（昭和40年卒）
○副会長 天野 哲征（昭和41年卒）
○副会長 青柳 史匡（昭和42年卒）
○副会長 伊藤 皓嗣（昭和44年卒）
○副会長 島津 彰（昭和48年卒）
○副会長 榊 博之（昭和58年卒）
○副会長 風間 和夫（昭和57年卒）
○副会長 海野 厚二（昭和58年卒）
○副会長 塩崎 弘明（昭和59年卒）
○副会長 渡邊 祐司（昭和57年卒）
○監査 近藤 健（昭和41年卒）
○監査 門脇 正和（昭和42年卒）
○監査 武田 隆雄（昭和46年卒）
○幹事長 白川 卓（平成5年卒）
○副幹事長 五十嵐義幸（平成元年卒）
○副幹事長 太田千佳子（平成4年卒）
○副幹事長 藤谷 毅（平成13年修）
（平成14年修 情宣部員 坂井顕也 記）

創立百周年事業を終え、新たな一歩を踏み出した夕陽会の大懇親会は、ホテル函館ロイヤルで盛大に開催されました。開会に先立ち、繪面和子副会長と天野哲征副会長の先導によりご来賓の方々が入場し、会場には大きな拍手が鳴り響きました。

藤谷毅副幹事長の進行のもと風間和夫副会長が開会を宣言し、令和元年度の大懇親会の宴が始まりました。

恒例の「夕陽讃歌」の斉唱では、北海道教育大学附属函館小学校の山城美佳先生（平成19年卒）が指揮を担当。参加者全員の母校に対する思いを込めた「夕陽讃歌」が会場いっぱい響きわたりました。

令和の時代を迎え 夕陽新たな旅立ち 大懇親会

令和元年度 夕陽会総会

令和元年 6月29日(土)



新会員紹介

会長挨拶で、藤川隆会長は、「昨年度の創立百周年記念行事・事業が、全て滞りなく実施できたこと」に対する会員皆様のご協力への謝辞を述べられました。さらに「新しい歴史の一歩を踏み出した夕陽会に対する変わらぬ協力」を呼び掛け、「今後数十年先の夕陽会の在り方を見通した取組」を進めていくため「会社員・公務員部会」の立ち上げや「令和の夕陽会を考える会」を発足したことなどについて述べられました。

ご来賓挨拶で、北海道教育庁渡島教育局長五十嵐晋氏からは、教育の今日的課題の解決に向け、日頃から尽力している夕陽会会員への感謝と



エール

新しい歴史を踏み出した夕陽会に対する、今後ますますの発展を願う激励のお言葉をいただきました。

続く新会員紹介では、赤川中学校佐藤美加教頭先生が六名の新会員（教員五名・民間一名）を紹介し、その後の自己紹介では、会場から大きな拍手と声援がわき起こりました。次に、北海道教育大学函館校キャンパス長後藤泰宏氏による祝杯のご発声で祝宴が幕を開けました。

今年も各卒業年次ごとの座席で、会場内は、互いに若き日の記憶をよみがえらせ、旧交を温め合いながら、青春時代に戻ったように語り合う姿が見られました。夕陽会大懇親会ならではの熱気に満ち溢れる雰囲気になりました。

宴もいよいよ佳境に入り、恒例のエールとなり、今年は赤川中学校の藤原涼太郎先生（平成29年卒）と山家佑太先生（平成21年卒）の新コンビが熱演し、会場を大いに盛り上げてくれました。

閉会が近づく中、トリを飾る寮歌の大合唱が始まります。諸先輩方が背に「夕陽」の法被姿で登壇すると、会場の雰囲気はさらに盛り上がり、恒例の小林周次先生（昭和33年卒）の音頭で、母校に対する思いを込めた歌声が会場全体を揺らすように響き渡りました。

余韻覚めやらぬ中、乾杯の時間と

なり、今年度は令和の夕陽会を担うこととなる函館校の四年生十一名が登壇し、堀川美琴さんが立派に乾杯の音頭を取り、会場は盛大な拍手に包まれ、宴はお開きとなりました。

最後に海野厚二副会長が閉会を宣言し、繪面和子副会長と天野哲征副会長の先導でご来賓の方々が退場され、本年度の夕陽会大懇親会も大盛会のうちに終了しました。

令和二年度も六月二十七日（土）に、ホテル函館ロイヤルにおいて、夕陽会本部総会ならびに大懇親会を開催する予定です。来年度もまた万障お繰り合わせの上、多くの会員諸氏がこぞつて集い、同窓の輪をひろげられるようご協力お願いします。

（平成14年修 情宣部員 坂井顕也 記）



学生による乾杯

令和元年度 夕陽会運営方針並びに推進事項

《運営方針》

「創造し行動する夕陽会」をモットーに、会員一人一人に活力と潤いをもたらす運営の充実と活動の活性化を図り、次の各事項の深化拡充に努める。

《推進事項》

1 組織強化と運営の効率化

会員相互の連携を重視し、各界会員の組織化と会運営の効率化を図る。

(1) 多くの同窓生が集うための広報活動や組織拡充の取組。(重点事項)

(2) 支部、ブロック、部会活動の活性化と本部との連携。

(3) 会社員・公務員会員の入会促進に向けた組織改編の推進。(重点事項)

(4) 若手会員の運営への積極的な参画。

2 人材の育成

(1) 夕陽会報227、228号の発行。

(2) 人材の発掘と会員の資質・地位の向上を図る。

(3) 会員である道・市町村議会議員、首長部局職員、教育行政・管理職等との連携。

(4) 関係機関・団体に所属する会員との連携。

(5) 地域の教育・文化の振興をリードする会員の発掘と育成。

(6) 民間企業、地方公共団体に勤める若手会員の中心となる人材の育成。(重点事項)

3 財政の効率的な運用と業務の見直し・効率化

(1) 「つなぎ」、「集う」視点から、諸事業の再構築と財政の効率的な運用に努める。

(2) 財政基盤の中・長期的な整備

策の検討。(重点事項)

(1) 諸業務、諸事業の見直しと再構築。

(2) 各支部と連携した諸会費の納入への取組。

(3) 研究・研修、文化事業の奨励

(4) 会員による個人及び協働の研究等を奨励し、明日の夕陽を担う会員等の研究・研修意欲の高揚を図る。

(5) 研究・研修助成並びに研究内容の紹介。

(6) 各支部の研究活動等の支援。(重点事項)

(7) 「若手枠」の活用による夕陽会の明日を担う若手の育成。

(8) 会員や母校学生による文化事業の奨励。

(9) 母校への支援と地域への貢献

(10) 母校の継続と発展を願い、新学科の支援を行う。

(11) 母校の就職対策関係事業及び教授対策関係事業への支援。

(12) 教採対策関係事業への支援。(重点事項)

(13) 学生に対する同窓会意識の啓発と勧誘活動の工夫。(重点事項)

(14) 大学の地域連携・社会貢献への協力・支援。

(15) 学生のスポーツ・文化・芸術活動への支援。

(16) 夕陽記念館(北方教育資料館)の整備・活用

(17) 夕陽記念館への、各種記念資料等の収集と適切な保存、展示、活用に努める。

(18) 会員の作品、記念資料等の収集と会報やWebページ等での周知。

(19) 夕陽記念館内外の環境整備、陳列品の整備。(重点事項)

(20) 夕陽記念館の教育活用、学生・地域住民への開放などの検討。

夕陽会本部 事務局業務分担

庶務部

藤谷 毅(附属幼稚園長)

太田千佳子(附属特支副校長)

1 諸会議(含懇親会)の諸準備及び進行、記録

2 文書の收受、発送及び保管

3 会員の慶弔事務

4 その他、庶務に関すること

財政部

新谷 公康(北美原小長)

1 通常会費の徴収、支出事務

2 基本金及び特別会計の徴収、支出事務

3 予算書、決算書の作成

4 前納会員に関する事務

5 その他、財政に関すること

組織部

五十嵐義幸(附属小副校長)

1 支部組織の編成と組織強化対策

2 会員の動態調査(支部別、校種別会員名簿)

3 支部役員名簿等の作成、会員名簿の作成にかかわる資料の収集

4 その他、組織全般に関すること

情宣部

櫻野 人範(知内小長)

1 「夕陽会報」の発行

2 その他、情宣に関すること

Web委員長

佐々木正幸(桔梗小長)

○ 夕陽会ホームページの充実

文化部

仲井 靖典(知内小長)

1 会員の文化活動に対する支援

2 学生のスポーツ・文化・芸術活動への協力・支援

3 その他、文化に関すること

研修部

吉田 敬三(万年橋小長)

1 会員の地位向上対策

2 会員の個人及び共同研究への助成

3 支部・ブロックにおける研修活動に対する支援

4 その他、研修に関すること

厚生部

濱谷 操(桔梗中長)

1 会員の親睦及び福利、厚生事業の企画、実施

2 記念資料及び会員の作品収集

3 夕陽記念館の整備、充実

4 その他、厚生に関すること

令和元年度 夕陽会本部役員名簿

[illegible]

（札）
幌

[6]

就任ご挨拶



就任にあたって

副会長 風間 和夫
(昭和57年卒 函館市立本通中学校長)

この度、函館市中学校長会を代表して夕陽会副会長という大役を仰せつかりました。昨年は夕陽会創立百周年記念式典・祝賀会に参加させていただき、改めてその歴史と伝統の重さを実感したところです。今年、新たな歴史の一步を踏み出します。藤川会長をはじめ役員の皆様のご指導をいただき微力ながら任を務めて参りますのでどうぞよろしくお願い申し上げます。

頼るのは夕陽の先輩でした。管理職になつてからは、夕陽の大先輩である恩師の方から学校経営について様々なご助言をいただきました。もうひとつ、夕陽会との大きな関わりは平成二十七、二十八年の二年間、函館市支部長を務めさせていだいたことです。その間、会長や幹事長はじめ役員の方々から多くの指導を賜り、会員相互の親睦と発展、地域の教育・文化の進展に寄与するよう努めて参りました。この度の就任を機に夕陽会の発展に少しでも貢献したいと思ひます。どうぞよろしくお願いいたします。



就任にあたって

副会長 神 博之
(昭和58年卒 函館市立亀田小学校長)

この度、函館市小学校長会を代表し、夕陽会副会長という大役を仰せつかり、身の引き締まる思いです。藤川会長をはじめ役員の皆様のご指導等をいただきながら、夕陽会の所期の目的が達成されますよう、微力ではございますが責務を果たしてまいります。

もに、幾度も同窓の方々に支えられ助けられ、今の自分がいると痛感しているところです。教職会員として、また小学校長として、本会の目的であります「会員相互の親睦、資質の向上を図る」、「教育・文化の創造と振興に寄与する」ことを念頭に、職務に当たらせていただきます。どうぞ、会員の皆様のこれまでと変わらぬご指導とご支援のほどよろしくお願い申し上げます。



就任にあたって

副会長 海野 厚二
(昭和58年卒 北斗市立上磯中学校長)

このたび、渡島小中学校長を代表いたしました。夕陽会副会長という大役を仰せつかりました。藤川会長をはじめ、役員の皆様のご指導を賜りながら、夕陽会の充実・発展のために精一杯努めて参る所存です。どうぞ、よろしくお願い致します。

私は、昭和五十八年三月に母校を卒業し、長万部町立長万部中学校に採用されて以来三十七年間、渡島管

内の六校での勤務を経験してきました。どの地においても夕陽会の諸先輩からのご指導、温かいご支援をいただき心から感謝申し上げます。令和という新しい年、そして夕陽会創立一〇一年目という新しいスタートの節目を迎えられる巡り合わせに感謝し、微力ですがこれまでお世話になった方々への恩返しができるよう頑張ります。



就任にあたって

副会長 塩崎 弘明
(昭和59年卒 江差町立江差中学校長)

この度、檜山校長会を代表して栄えある夕陽会副会長の任を仰せつかりました。微力非才の身ではございますが、大役をお受けしたからには、藤川会長をはじめ役員の皆様にご指導を仰ぎながら誠心誠意、夕陽会の発展・充実のために尽くす覚悟でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

私は、昭和五十九年三月卒業、同年四月から出身の檜山管内にて教員の任につき現在まで三十五年間、檜山一筋で勤務して参りました。一般教員時代には勤務する町の夕陽会支部に参加させていただき、諸先輩から教員のイロハを教えていただきました。

した。檜山中心の活動ではありましたが、年代を超えた同窓の温かさを実感させていただきました。このようなことから本部総会、大懇親会へは管理職になつてからの参加で、昨年の百周年記念祝賀会では学生時代にお世話になった先輩や同期の仲間と旧交を温めることができた。同窓の絆の強さを実感しました。これまでを振り返ると、いつも夕陽の先輩に支えられてきた自分に気づきます。この度の就任を機に、これまでご指導いただいた諸先輩のご厚誼に少しでも恩返しができるよう頑張つて参りますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。

会務報告



幹事長
白川 卓
(平成5年卒)

《一般会務》

3/17 母校卒業式に藤川会長、五十嵐副幹事長、太田副幹事長が出席する (函館市)
4/2 北海道教育大学入学式に藤川会長が出席する (札幌市)
5/21 会計監査を行う (函館市)
5/29 第2回本部役員会を開催する (函館市)
6/11 第3回本部役員会、顧問・参加者を開催する (函館市)
6/23 通信陸上夕陽会長杯の贈呈が行われる (函館市)
6/29 令和元年度全国支部長会議・本部総会・大懇親会を開催する (函館市)
7/12 ①夕陽フォーラムを開催する (函館市)
7/18 北海道教育大学本部との協議に藤川会長、白川幹事長が対応する (函館市)
7/27 夕陽明日の教師塾を開催する (函館市)

《支部総会・懇親会・同期会等》

4/13 函館市支部総会に藤川会長、白川幹事長、五十嵐副幹事長、太田副幹事長、藤谷副幹事長が出席する (函館市)
4/20 空知支部総会OB交流会及び歓迎会に白川幹事長が出席する (石見沢市)
4/21 札幌市支部総会に藤川会長が出席する (札幌市)
4/21 夕陽指導主事等会懇親会に藤川会長、白川幹事長が出席する (札幌市)
5/9 函館市支部新会員・転入会員・幹事懇親会に藤川会長、白川幹事長、五十嵐副幹事長、太田副幹事長、藤谷副幹事長が出席する (函館市)
5/11 渡島支部総会・懇親会・新会員歓迎会に藤川会長が出席する (函館市)

5/11 小樽支部総会・懇親会に藤谷副幹事長が出席する (小樽市)
5/11 帯広十勝(巴湾会)総会に五十嵐副幹事長が出席する (帯広市)
5/11 釧路支部総会、歓迎懇親会に白川幹事長が出席する (釧路市)
5/11 檜山支部第1回総会(支会長会議)、歓迎会に天野副会長が出席する (江差町)
5/11 上川支部総会、懇親会に太田副幹事長が出席する (旭川市)
5/17 渡島支部八雲支会総会・懇親会・新会員歓迎会に藤川会長が出席する (八雲町)
5/18 後志支部総会、歓迎会・懇親会に五十嵐副幹事長が出席する (倶知安町)
5/18 石狩支部総会・歓迎懇親会に藤川会長が出席する (札幌市)
5/31 昭和33年修了同期会懇親会に藤川会長が出席する (函館市)
① 渡島支部木古内支会総会懇親会に藤川会長が出席する (木古内町)
7/5 渡島支部福島支会総会懇親会に藤川会長が出席する (福島町)
7/9 渡島支部北斗支会総会懇親会に藤川会長が出席する (北斗市)
7/11 渡島支部森支会総会懇親会に天野副会長が出席する (森町)
7/12 渡島支部知内支会総会懇親会に藤谷副幹事長が出席する (知内町)
7/12 渡島支部七飯支会総会懇親会に藤川会長が出席する (七飯町)
7/13 空知支部教育講演会において藤川会長が講演する (石見沢市)
7/17 渡島支部鹿部支会総会懇親会に藤川会長が出席する (鹿部町)
7/19 渡島支部第1回支会長・幹事長会議に藤川会長が出席する (七飯町)
7/25 渡島支部長万部支会総会懇親会に藤川会長が出席する (長万部町)

智恵を絞り奮闘する各支部

全国支部長会議

令和元年六月二十九日(土)、ホテル函館ロイヤルにて全国支部長会議が開催されました。

昨年度は一〇〇周年記念事業の関係で支部長会議の時間が短く、各支部の取り組みを十分に交流することができなかったため、今年は地域ごとの実態を交流することを大切にした支部長会議となりました。

議長には、繪面副会長と天野副会長が選出され、議事が進行了ました。会に先立ち、藤川会長から母校の卒業生・修了生の就職状況について報告がありました。その中では、地域教育専攻の二十八名の学生が教員となったこと、札幌市や道外の出身地で教職に就くことを希望する傾向にあることについて報告されました。

また、民間・公務員の夕陽会部会を発足させ、今秋には道南を中心に五十名ほどで懇親会を開催するとの話がありました。

次に白川幹事長より平成三十年度の会務報告、新谷財務部長より会計報告、近藤監査より監査報告が行われました。そこでは、平成三十年度

の一〇〇周年事業にかかわる行事や会計についての説明もなされました。

続いて、令和元年度の運営方針(案)について白川幹事長から、会社員・公務員部会の発足などの組織拡充の推進などの説明がされました。また、若い会員を増やしていく方法として、フェイスブック等のSNS活用や、新しいホームページについても説明がありました。若い会員が後に地域の教育や文化をリードする人材として活躍できるような同窓会運営を目指していくとの説明がありました。

全国支部長会議の後半では、各支部からの現状報告が行われました。各支部とも会員の減少の課題がある中、公務員の会員や若手会員に声を掛けるなど努力を重ねている支部が多いことが分かりました。地域のリーダーとなる人材育成のために、各支部がそれぞれの特徴を生かして取り組みを重ねていることを報告の中から確認することができました。

令和の夕陽会を考える会

〈趣旨〉

夕陽会は、①会員相互の親睦、資質の向上を図る、②教育・文化の創造と振興に寄与することで、北海道教育大学函館校の発展と地域の興隆に資することを目的としています。

平成の時代、母校は、昭和六十三年に設置された総合科学課程とその拡大、校名の改称や法人化など、大きな変革の時代となり、夕陽会にも変革が求められています。

平成三十年に創立一〇〇周年の大きな節目を迎えた夕陽会は、新たに次の一〇〇年に向けて踏み出します。時間同じくして、新元号も「令和」となり、新たな時代となりました。

新たな時代は、今までの経験では想像もできない社会へと加速度的に変化すると言われています。そのような時代においても、会員相互の親睦と母校・地域への貢献に積極的に行動できる夕陽会であり続けるために、その在り方について多様な立場の皆様からご意見をいただき、持続可能な夕陽会へと成長する鍵としたいと考え、「令和の夕陽会を考える会」を発足します。

〈目的〉

本会は、以下の事項について検討を行い、意見書として夕陽会会長に提出します。

- ① 会員相互の連携を図るための組織拡充の取り組みや事業内容について
- ② 母校や地域への貢献について

- ③ 財政基盤に応じた諸業務、諸事業の見直しと組織改編について
- ④ その他、会の持続的運営に關すること

〈組織〉

本会の構成員は次の六名とし、夕陽会会長が委嘱します。

- ① 函館市支部または渡島支部の校長一名、教頭一名
 - ② 函館校の会員一名
 - ③ 函館校の学生一名
 - ④ 会社員・公務員部会の会員二名
- ※司会や記録は、本部事務局が行います。

※検討のための資料として、各支部にアンケート調査をお願いするなど、広く会員の意見を集めます。

〈スケジュール（予定）〉

- 令和元年八月 構成員委嘱
第一回 令和の夕陽会を考える会
令和二年二月 第二回 令和の夕陽会を考える会
※以後、数回の開催を予定
令和二年五月 本部第二回役員会にて中間状況を報告
令和三年五月 本部第二回役員会にて最終報告



受賞（章）おめでとうございます

- | | |
|--|---|
| <p>※瑞宝双光章（高齢者叙勲3/1）
加藤 彰一氏（昭31年卒
室蘭市港南町二の一五の六）</p> <p>※瑞宝双光章（高齢者叙勲3/1）
河村 敏明氏（昭27年卒
札幌市北区太平七条二の二の七）</p> <p>※瑞宝双光章（高齢者叙勲7/1）
吉田 道夫氏（昭27年卒
小樽市望洋台二の一〇の六）</p> <p>※瑞宝双光章（高齢者叙勲5/1）
守山 和男氏（昭34年I卒
札幌市白石区菊水一条四の六の三八
グランウェルネス菊水七九六）</p> <p>※瑞宝双光章（高齢者叙勲5/1）
有村 尚孝氏（昭28年卒
岩見沢市上幌向北の一の二五六の三四）</p> <p>※瑞宝双光章（高齢者叙勲5/1）
原 功氏（昭30年II卒
札幌市白石区菊水九条四の四の三〇サーム菊水七七）</p> | <p>※瑞宝双光章（高齢者叙勲6/1）
小山 昌吾氏（昭29年I卒
函館市美原四の二二の一六）</p> <p>※瑞宝双光章（高齢者叙勲6/1）
小田寺 勇氏（昭30年I卒
函館市東山三の四の一）</p> <p>※瑞宝双光章（高齢者叙勲7/24）
新井山俊城氏（昭29年II卒
七飯町鳴川五の八の四）</p> <p>※瑞宝双光章（高齢者叙勲8/1）
鎌倉 孝氏（昭30年I卒
函館市高盛町一八の一四）</p> <p>※瑞宝双光章（高齢者叙勲8/8）
田村十一郎氏（昭32年II卒
七飯町鳴川一の一四の八）</p> |
|--|---|
- ※就任おめでとうございます
※今金町教育長就任（7/1）
中山 秀悦氏（昭59年卒）

令和2年度 北海道教育大学夕陽会 本部総会・大懇親会・ 全国支部長会議のお知らせ

◆日 時 令和2年6月27日(土)

◆会 場 ホテル函館ロイヤル

(函館市大森町16番9号 ☎0138-26-8181)

- ・令和2年度 全国支部長会議 13時30分～15時30分
- ・令和2年度 総 会 16時～17時
- ・令和2年度 大 懇 親 会 17時30分～20時

各界で活躍する夕陽会員



特別支援と岩手県支部に支えられ

(平成9年卒 岩手県滝沢市立鵜飼小学校教諭) 橋田 孝

平成九年に函館校を卒業し、岩手に移り住み二十年が経とうとしています。この岩手での二十年、小学校の通常学級や特別支援学級担任、通級指導教室担当など、多くの経験を積ませていただきました。

私は大学の専攻で特別支援教育(当時は障害児教育)を学んだこともあり、徐々に特別支援教育を中心とした教員生活を送るようになってきています。特に、特殊教育から特別支援教育へと変わったこの十年あまり、様々な研修に出かけたり、特別支援についての通信を発行したりしながら、特別支援教育の啓発に力を入れてきました。私自身の特別支援教育への造詣を深めるとともに、同僚にもその内容を伝え、学校全体に特別支援教育を広めていくことが重要だと考えていたからです。

そんな中、幸運にも今年の五月から七月までの二ヶ月間、国立特別支援教育総合研究所の専門研修に参加できることになりました。この研修に参加してみると、これまでの自分の実践について反省することばかりでした。学ばなければならぬことが山のようにあることに気付かされたのです。また、研修とともに学んだ八十人の仲間の思いにも刺激を受けました。これまでやってきたこと

の薄っぺらさを痛感せざるを得ない二ヶ月となりましたが、今後の私の教員生活に大きな意義をもたせてくれたことも事実です。岩手に戻ってきてからは、これまで以上に自分の行動や思いに興味をもつことができるとなりました。教員として、何年経っても、幾つになっても向上心を持ち続けることの重要性を学べた素晴らしい機会をいただけたことに感謝しています。

感謝といえば、夕陽会岩手県支部も忘れられません。岩手の初任地で幸いなことに夕陽会の先輩と出会い、その後、夕陽会岩手県支部に誘っていただきました。岩手県支部のほとんどの先生方が大先輩ばかりで、はじめは緊張しましたが、岩手に縁もゆかりもない私でしたので、今では夕陽会に参加し、様々な話をしたり、武勇伝を聞いたり、相談に乗っていただいたりすることが大きな楽しみとなっています。

近年は、夕陽会に参加する同僚が減ってきていますが、夕陽会の素晴らしさを伝えながら参加者を増やしていくことも命題なのではないかと感じています。教員生活も半分を超えた今、残りの時間を特別支援教育と夕陽会の発展に力を注げたらと考えています。



一本のカセットテープ

一 森 裕 正

(平成14年卒 株式会社ニユーメディア函館センター 業務部メディア企画課長)

「クシャクシャ」になった一本のカセットテープが会社に送られてきました。最近は何となく見なくなったカセットテープですが、私が中学生の頃は流行の曲をテープに録音し、ソニーの「ウォークマン」やバナソニックの「シエルロック」を持ち歩くのがオシャレで、定番でした。そのカセットテープが送られてくる数日前、とある女性から会社へ一本の電話が鳴りました。女性によると、カセットテープは先日亡くなった父親の遺品を整理した時に見つけたものだそうです。クシャクシャになっているにも関わらず、大切な物をしまっている箱の中にあつた。

「何のテープ?」「父親はあまり音楽を聞くタイプでもない」。そういう娘さんは、どうしてもカセットテープの味が気になり、量販店や地域の電器店を訪ねますが「修復は難しい」という回答だったそうです。藁にもすがる思いで電話をいただいたのは、現在私が働いているニユーメディア函館センター、通称「NCV」でした。NCVはインターネット、ケーブルテレビ、電話サービスを展開する情報通信会社で、私は地域情報を発信するコミュニティチャンネルの部門を担当しています。番組のなかには、昭和初期の8ミリ映像を扱うこともあり、「もしかしたら……」という思いで電話

を掛けたそうです。もちろんテープを修復するのは専門外です。しかし、当時は開局まもなく、会社のことを知っている人は少ないこともあり、頼みごとは多くても、頼まれごとをされるのは、なんだか新鮮でした。「何とかしてみます」。根拠のない返事をしてしまい、数日後カセットテープが届くことに。

クシャクシャになったテープは一度切断し、ヨレを取りながらセロハンテープで繋ぎ直しました。カセットデッキのホコリを払い、修復したテープをそっと入れ、再生ボタンを押す……。「♪ぞーさん ぞーさん おーはなが ながいのね」スピーカーからは、小さい頃の娘さんと思われる歌声、そしてお父様の笑い声と手拍子が流れてきました。何気ない日常ですが、家族の情景が頭に浮かび上がり、自然と涙がこぼれました。修復した音源は後日、CDとデータにしてお渡しすることができました。「久々の父の声に家族全員が感動した」とお礼の手紙もいただきました。

人の役に立つこと、また、映像や音の持つパワーを改めて感じたのを今でも覚えています。「放送と通信を通じて、地域に何ができるのか」。その時の気持ちを忘れず、これから邁進していきたいと思います。



根室支部だより

根室支部長 打川 真由美

(昭和62年卒 別海町立中西別小学校長)

新たな令和時代となった今年度、校長採用と同時に支部長の大役をお受けすることとなりました。身の引き締まる思いを感じております。

根室内は、人口の減少、少子化の影響により、学校数はこの十年間で六十二校から四十二校に減少しました。一方で、ベテラン教員の大量退職、新任教員の大量採用の時期を迎え、ますます教員年数の均衡が崩れ、年齢構成の学校間格差も生じております。教員の定着率が低い当管内においては、教員個々が自らのキャリアに応じて資質能力を高めていく組織的な人材育成の取組が、喫緊の課題と言えます。

夕陽会根室支部は、今年度、現職会員三十九名、OB会員十六名、計五十五名で活動しております。

六月の総会では、少人数ではありましたが現職会員、OB会員が『夕陽会旗』の下に集い、支会の運営、人材育成等、課題解決や今後の方向性等に意見を交わし、和やかな雰囲気の中で互いに知恵を出し合いました。支会の活動を通して会員の絆やつながりを感じ、感謝の思いを新たにしております。

同じく六月には、全国支部長会議に参加し、久しぶりに函館の街を訪れて参りました。私達同窓生は、百

五十年前に新時代の扉を開けた函館の風を感じながら教員を志したこと、異国情緒溢れ多様性を享受する函館の素地は、確かに私達の教員DNAに刻まれていることを再認識し、勇気をいただき帰路に就きました。他の支部が、どのように組織を強化し活動を工夫しながら会員の資質・職能向上や人材育成に取り組んでおられるか、情報交流で伺うことができ、ことも貴重でした。私達の支部ですぐ取り組めるヒントを与えていただいたと感じております。

折しも、新学習指導要領の全面実施、「社会に開かれた教育課程」の実現、働き方改革の取組等、時代は教育改革による大きな転換期を迎えております。Society5.0時代の到来を見据えて、予測の難しい未来社会を生き抜く力を育む「主体的・対話的で深い学び」等の教育を実現していくことは、多様性を推進し一人一人を尊重する函館の風を教育、社会に吹かせていくことと感じております。

根室支部は、互いに磨き合い、一人一人が力量と豊かな人間性を高める会員相互の研鑽と交流の場として、教員以外の会員へのアプローチも含め、会の充実と発展を目指して参ります。



釧路支部だより

釧路支部長 鳴海 厚

(昭和58年卒 釧路市立大楽毛小学校長)

この夏は釧路市街地でも珍しく真夏日を記録し、天然のクーラーの中で暮らしている釧路の人々にとって、は厳しい夏となりました。ただ、時折心地よい浜風が吹き、故郷函館を思い出させてくれました。

三十七年前、大学卒業と同時に縁もゆかりもない道東釧路の地に赴任しました。そして、間もなく教員生活を終えようとしておりますが、その間、心の支えとなったのが夕陽会のつながりでした。

もともと、夕陽会と釧路のつながりは深く、釧路に教育大学が無かった時代は多くの教員志望者は函館にある第二師範学校を目指したそうです。私が会と関わり始めた頃、先輩の方々からそんな話を聞きました。

当時は交通の便も悪く、大変な思いをしながら函館で教員を目指したそうです。石勝線もなく、根室本線に乗り、夜汽車に揺られ、滝川を経由して函館まで二日ばかりで向かいました。そのような苦労をされながら、教員を目指した方々でしたから、母校への思いも大変熱いものがあり

ました。先輩方が熱唱された寮歌は今でも忘れることができません。しかし、時代が変わるとともに釧路出身の夕陽会員も少なくなり、会員の数も減少の一途をたどっています。

現在の釧路支部ですが、現役会員が三十六名、OB会員が三十名の十六六名で活動しています。そのうち、管理職会員は私を含め、二名となり、後継者の育成が急務となっております。

ただ、一方では有望な若手会員も多数いることから、できるだけ多くの若手を巻き込みながら、会の活動を活性化させたいと考えています。

定例の行事としては四月の総会、一月の新年交礼会の他、道東地区の各支部が集まる道東ブロック研修会があります。いずれも参加人数が徐々に少なくなってきましたが、本部の方針にも示されている通り、会社員・公務員会員など、幅広い方々にも参加いただくよう取り組みを進めて参ります。そして、夕陽会の古き良き伝統を柱としながら、より「社会に開かれた」釧路支部としての活動を充実させていきたいと思っております。

前納会費納入会員名簿追加分

工藤達也	函館	昭56
幕田真二	函館	昭56
竹嶋充	函館	昭56
大桐公敏	函館	昭56
片桐由博	函館	昭56
宇佐美雅司	函館	昭56
鳥羽栄治	函館	昭56
松像英明	函館	昭56
鳴海康司	函館	昭56
高橋利子	函館	昭56
浅利節子	函館	昭56
(敬称略 令和元年8月20日現在)		

夕陽会員計報

淀川 乾氏 昭18	23	新井山俊城氏 昭29 2類	元・6・22
函館市桔梗3の14の14	小松恭雄氏	七飯町鳴川5の8の4	長女 章子氏
新田 茂氏 昭31	30・7・25	平野 毅氏 昭32 I	元・6・25
山梨県甲州市塩山小屋敷1579の1	娘 岩波珠美氏	函館市陣川2の9の30	妻 桂子氏
佐々木裕之氏 昭39	30・12	伊藤 英実氏 昭35 I	元・6・28
北斗市久根別2の13の13	喪主不明	七飯町大川3の13の43	妻 淑子氏
敦沢 陽子氏 昭24	31・2・12	松原 俊子氏 昭27 II	元・7・3
函館市桔梗町52の26	金子武史氏	函館市大町5の2	夫 福丸氏
岡本 洋一氏 昭31	31・2・13	木村 實氏 昭34 II	元・7・6
七飯町本町3の6の16	妻 裕子氏	七飯町桜町1の7の1	妻 節子氏
藤原 祐助氏 昭42	31・2・22	田村十一郎氏 昭32 II	元・7・9
北広島市高台町4の2の1	長男 弘隆氏	七飯町鳴川1の14の8	妻 弘子氏
眞田 幸祐氏 昭35	31・2・24	川島 啓右氏 昭34 I	元・7・15
函館市湯川町3の8の9	妻 チサ子氏	函館市赤川1の24の11	妻 則子氏
山口 均氏 昭32	31・3・29	佐藤 慎雄氏 昭43	元・7・23
函館市西旭岡町1の14の13	妻 トキ氏	函館市日吉町2の30の5	妻 明子氏
青野 昌勝氏 昭37 I	31・4・18	田野中 敏氏 昭49	元・8・1
札幌市厚別区厚別東2条4の10の3	妻 勇利子氏	函館市昭和1の28の25	長男 厚氏
酒井 富夫氏 昭35	元・5・4	野田 義成氏 昭32 I	元・8・5
函館市時任町3の12	妻 勇利子氏	札幌市南区澄川5の12の1の23	
扇谷 久氏 昭29 II	元・5・9	池田 泰啓氏 昭35 I	元・8・9
札幌市厚別区西1の3の2の33の201	久保聖子氏	七飯町大川9の22の12	妻 恵子氏
三上 巖氏 昭24 II	元・5・12	笹川 孝良氏 昭33 I	元・8・18
函館市柏木町31の5	妻 哲子氏	北斗市常盤1の16の27	妻 正子氏

(令和元年8月30日現在)

～ ホームページをリニューアル ～

北海道教育大学夕陽会も創立101年目を迎え、夕陽会新時代事業の一環として、現在、ホームページのリニューアル作業を行っております。これまでのホームページの内容等を継承しながらも、皆様の意見を反映し、親しまれる夕陽会を目指して「見やすく、活用されるホームページ」になるよう、web委員会を中心にして取り組んでおります。

また、画面上部の「会員情報変更届」から簡単に会員情報の変更ができます。是非、ご活用いただき、皆様の現況情報を提供いただければと思います。 URL: <https://sekiyoukai.com/>



創造と行動



編集後記

◆元号が変わり初めての夕陽会報二七号をお届けできることをうれしく思います。頂戴した玉稿からは、夕陽会への熱い思いがあふれております。是非ともご精読ください。

◆今号の巻頭写真は、函館漁港(通称・入舟漁港)から望む臥牛山です。函館漁港は、現代土木の父と呼ばれた廣井勇博士が明治二十九年に設計・監督した函館で最も古い、歴史ある漁港です。

◆総会において「令和の夕陽会を考える会」の発足についての承認をいただきました。令和の新時代を迎えた今、一世紀にわたり成長、発展を続けてきた夕陽会が、変わらず、変えずにきたことを守るために、何を変えなければならないか、足下を見つめ、長い目を持って次の百年を見据えた変化をする第一歩ととらえています。

◆情宣部の今年度のスタッフは坂井顕也(平14修石崎小長)、吉田麻夕子(平11卒柏野小)です。どうぞよろしく願っています。

(情宣部長 檉野 人範 記 昭60卒)

本部事務局へのご連絡などは、次の所へお願いいたします。

041-0806 函館市美原3丁目48番6号

北海道教育大学附属函館小学校内

夕陽会本部事務局

電話番号(0138)46-2235

夕陽会専用(0138)34-5520

FAX番号(0138)47-7376

題字 文化勲章受章者 金子賢蔵(鶴亭氏 昭4卒)